

青山学院大学国際ビジネス専攻修士課程

—国際化する21世紀産業社会をになう人々のために—

高森 寛

1. はじめに

わが国にも、本格的な生涯学習の時代が到来してきた。産業社会の高度化に伴い、個々の職業人が、そのたずさわる仕事を遂行するうえでも、より高度の知識や技能が要求されるようになり、また、職場の仕事から発生してのさまざまな問題意識を抱き、大学院へいくことを望む人々が増えてきた。また、産業社会の国際化、情報化、構造変化、企業のリストラクチャリングなどが進行するなか、終身雇用の慣習なども流動的になってきた。このような環境で、人々は、みずからの将来のキャリア・プランを展望するとき、自分のおかれている職場環境を超えた、もっと広い世界で、新しい知識を吸収し、みずからの知的能力をさらに磨く機会を求めようになってきた。そのような職業人も、広く、その教育の対象に含めて、実践的な高度専門教育を重視した新しいタイプの人文・社会科学系大学院として、青山学院大学の大学院国際政治経済学研究科のなかの、特に、国際ビジネス専攻修士課程を中心に紹介したい。

2. 概要

青山学院の大学院国際政治経済学研究科には、5年一貫制の博士課程と国際ビジネス専攻の修士課程がある。したがって、大学院の授業科目は、昼間にも、夜間にも配置されている。国際ビジネス専攻修士課程の学生のための科目は、主として、週日の夜間と、土曜日の昼間に設置されているが、もちろん、週日の昼間の授業科目も、履修することが可能である。ただし、昼間の科目は、上級科目が多い。

このように、修士課程の学生には、昼間にフルタイムで勉強する大学院生と、昼間は職業についていて、主と

たかもり ひろし 青山学院大学

〒150 渋谷区渋谷 4-4-25

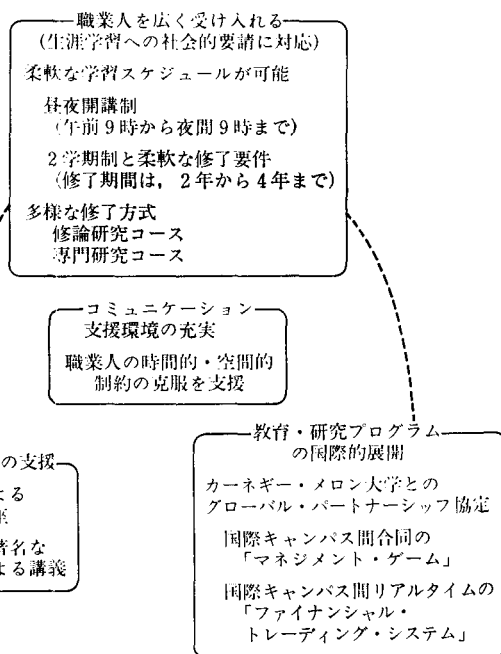


図1 青山学院大学・国際ビジネス専攻修士課程
概要と特色

して、夜間と土曜日にキャンパスにきて、学業に従事する学生たちがいる。

以下に、修士課程の概要を述べる。

各研究コースの構成は、以下のとおりである。

修論研究コース

国際政治学コース

国際経済学コース

国際経営学コース

専門研究コース

国際政治学コース

国際経済学コース

国際経営学コース

入学者の募集人員は、これら合わせて、約70名である。入学者選考は、各コースとも、年1回、2月に行なわれる。

また入学時期は、年に2回、4月と9月にある。

修論研究コースは、どちらかという、従来型の研究志向の修士課程コースで、修士論文研究にかなりの比重が置かれる。専門研究コースは、1つの研究テーマの周辺に集中して、深く学習、研究するのではなく、もう少し広い領域にわたって、バランスのとれた知識・技能を習得できるようデザインされている。このコースは、修士論文の研究に従事しないで、必修の演習科目で、特定の研究課題にとりくむことになる。専門研究コースの国際経営学コースでは、その演習科目として、「国際ビジネス・シミュレーションⅠ・Ⅱ」（8単位）が必修で、経営のさまざまな意思決定、戦略策定の状況に直面し、解決すべき問題状況の試練に立たされる。ここでは、修論研究にまさるとも劣らないぐらいの時間とエネルギーが要求される。

対象：大学院修士課程への出願者のカテゴリーは、大別して、「職業人」と「一般」がある。

「職業人」の場合は、大学卒業後、企業などに2年以上勤続していることが必要とされている。このように、実務経験が重視される。これは、職業経験から生まれた問題意識や強い学習意欲が、入学後の知識修得と研究に大きくプラスするという考えにもとづいている。この修士課程では、次のような理念をかかげ、教育の目標としている。「各界で活躍している若手、中堅の職業人を対象とする。そして、その人たちが、やがて21世紀の産業社会の各場を背負うリーダーとして立てる準備としての、創造的知性と哲学を養う機会として、この修士課程を活用し、また、発展をつづける始点としていただきたい。」「一般」のカテゴリーの学生は、入学後も、フルタイムで昼間に学習するというのが前提となっていて、修論研究コースでしか受け入れていない。したがって、キャリアとしては、研究者や教育者志向の学生が多い。修士課程の修了後も、博士課程への進級へとチャレンジする人たちも多い。

授業科目と授業時間帯：夜間の授業は、6：30pm～8：00pmの90分が標準である。昼間の授業は、土曜日も含めて、午前の9時、11時、午後の1時10分、2時45分に、それぞれはじまる90分の授業が置かれている。研究所をはじめ企業のフレックス・タイム制など、最近では、勤務時間が柔軟になっているため、職業人学生の昼間の受講がかなり見られるようになってきた。

各授業科目とも週1回のクラスが標準で、春または秋の1学期で、2単位を修了する Semester 制をとっている。

修了要件：修論研究コースは、2年以上在学し、30単位以上取得し、修士論文の研究に従事し、その審査に合格しなければならない。また、専門研究コースの場合は、2年半以上在学し、38単位以上取得し、特定の研究課題を完成させる。すでに述べたように、専門研究・国際経営学コースは、「国際ビジネス・シミュレーションⅠ・Ⅱ」の履修が必要要件である。

博士課程への進級：修士課程を修了のうえ、進級試験に合格すれば、博士課程への進級が可能である。

教員スタッフ：教員スタッフは、専任教員37名、青山学院の学部からの兼任教員8名、海外の大学、研究機関からの客員教授11名、兼任講師12名から構成されている。

3. 教育・研究プログラムの特徴

3.1 産業界からの教育プログラム支援—企業寄附講座

職業人、有職者を広く対象として含めた教育プログラムであることもあって、産業界からの積極的な支援をうけて、諸企業の寄附による一連の講座科目が、カリキュラムに組み込まれている。寄附による各講座では、海外から著名な学者、研究者が客員教授として招聘され、授業科目を担当する。1993年度には、表1に示すような企業13社による合計11の寄附講座が開講される。

これら寄附講座によって、受講学生は、各専門分野における最新のテーマ、話題、先端的な知識水準に触れることができる。寄附講座は、専任スタッフによる教育科目を補完し、カリキュラムの高度化、活性化にはかり知れない貢献をしている。

また、各寄附者企業の社員は、資格審査のうえ、寄附講座の聴講生として認められたうえで、どの寄附講座でも聴講できるようになっている。

これまでの客員教授の中には、コロラド大のケネス・ボールディング教授、マーケティングのD.A.アーカー教授（カリフォルニア大）、経営戦略論のアンゾフ教授、戦略情報システム論のC.ワイズマン教授、カーネギー・メロン大の会計学の井原雄士教授などがある。また、オペレーションズ・リサーチの分野での重鎮、テキサス大学のW.クーバー教授も、1992年の春学期に招聘され、組織体の効率分析（DEA）を講義された。受講した学生の中には、さっそく、自社の諸部門の各種の投入品目データ、産出データを使って、自社の組織体としての効率分析をテーマとして、修士論文研究としたいという学

表 1 1993年度開講寄附講座 青山学院大学国際政治経済学研究所

講 座 名	寄 附 企 業	1993 年 度 客 員 教 授
グローバリズム・リージョナリズム・ナショナリズム	新日本製鐵㈱	Werner Kampeter Friedrich-Ebert-Stiftung (Germany)
C I S ・ 東 欧 の 新 し い 政 治 と 経 済	三 菱 商 事 ㈱	Mihaly Sima Institute for World Economics of the Hungarian Academy of Sciences
経済のグローバル化と産業・技術・労働	三井海上火災保険㈱	Susan Starange European University Institute (Italy)
国際金融	㈱住友銀行	William R. Cline Institute for International Economics
経営情報とシステム科学	日本アイ・ビー・エム㈱	William W. Cooper University of Texas
ファイナンス	野村証券㈱	E. Han Kim University of Michigan 若杉 敬明 東京大学
ファイナンシャル・レポーティング	㈱東 芝	Yuji Ijiri Carnegie Mellon University
マーケティング	キャノン㈱・キャノン販売㈱	T. A. Moordian and J. M. Olver College of William and Mary
企業環境と経営革新	旭化成工業㈱	Robert Kelley Carnegie Mellon University
(1) 国際ビジネス・シミュレーション (青山—カーネギー・メロン大学 合同科目)	本田技研工業㈱ ソ ニ ー ㈱	石倉 洋子 国際政治経済学部
(2) ファイナンシャルトレーディング システム (F T S) (青山—カーネギー・メロン大学 合同科目)	三井生命保険相互 清水建設㈱	Sanjay Srivastava John O'brien Carnegie Mellon University

生がいる。彼は、1993年の6月に、また、クーバー教授がこられるのを待ちかまえている。

3.2 教育・研究プログラムの国際的な展開

教育・研究プログラムの国際的な次元での展開をはかり、充実していく柱としては、米国のカーネギー・メロン大学のビジネス・スクール (Graduate School of Industrial Administration, GSIA) と「グローバル・パートナーシップ協定」を結んで、教員および学生の交流・交換を進める道を開いている。また、同校と、両キャンパスで同時進行の合同教育プログラムとして、1992年度の秋学期から、「国際ビジネス・シミュレーション」と「ファイナンシャル・トレーディング・システム (Fi-

nancial Trading System, FTS)」が始動している。これらは、講義が中心ではなく、プロジェクト参加型の授業科目ともいえる。

国際ビジネス・シミュレーションの方は、専門研究・国際経営学コースでは必修であるが、国際政治学コースの学生も履修が認められる。

以下に、これら、特色ある国際的キャンパス間の合同講座を紹介する。

国際ビジネス・シミュレーション：各チーム数名の会社経営陣を編成して、経営上のさまざまな戦略策定、問題解決の状況に立たされて、チームとしての意思決定を行って行くマネジメント・ゲームである。それぞれの

チーム内で、マーケティング、生産、財務、製品開発などの担当重役の役割を担いあいながら、寡占市場で競合する会社経営を模擬する。青山、カーネギー・メロン両キャンパスの多数のチームは、市場では、新製品の開発・導入や商品価格などで競合しながらも、製品、原料のOEM供給や余剰生産設備の貸与などで提携関係を結んだり、ときには、企業間の吸収合併の交渉を行ないながら、企業経営の業績を競い、また、経営上のさまざまな問題状況を経験する。ときには、予想しない事態に対処することが要求される。

各会社の学生経営陣に対しては、実業界からの数名の経営者（トップマネジメント）や教員スタッフで構成される取締役会が設置される。ゲームの期間中3回にわたって、学生経営陣は、経営戦略策定書や年次報告書などのレポートを取締役に提出し、プレゼンテーションを行わなければならない。また、生産工場の新設とか新株式の時価発行などの重要な意思決定の実行は、文書による取締役会の承認を得なければならない。学生経営陣と取締役会役員との厳しいやりとりは、緊張感と熱気あふれる真剣な場で、現実の巨大な社運をかけての攻防を彷彿とさせる。

約3カ月間にわたって、両キャンパスで同時進行するこの合同マネジメント・ゲームは、電子メールや、電子掲示板、国際電子会議など、両校キャンパスのコンピュータ・ネットワーク間のスムーズなコミュニケーションのための環境を整備して可能となっている。この「国際ビジネス・シミュレーション支援装置」は、1992年度、文部省より、情報設備補助金の対象として採択された。

ファイナンシャル・トレーディング・システム—国際キャンパス間リアルタイム・トレーディングによる合同授業：国際化が進行し、高度なテクノロジーが導入されつつある現代の金融市場の働きや、ファイナンスにかかわる理論と実践の専門知識を教育するために、コンピュータ・ネットワーク上に取引市場を形成し、受講する学生ひとりひとりに、端末から、トレーダーとしての各種の役割を演じさせながら学習させる。

この授業をサポートするコンピュータ・システム Financial Trading System (FTS) は、カーネギーメロン大学のスリバスターバ (S. Srivastava)、オ布莱エン (John O'Brien) 両教授が、金融市場に関する教育と研究のために開発したもので、株式、先物、オプション、

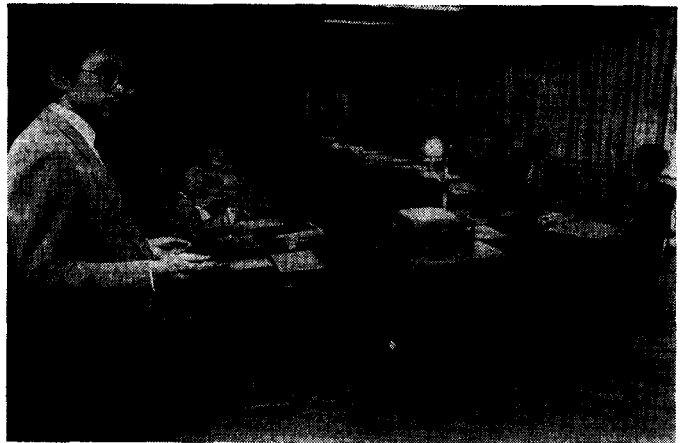


写真1 国際ビジネス・シミュレーション：取締役会におけるプレゼンテーションの光景

オン、通貨為替などの各種金融証券や市況商品などの取引を、臨場感豊かに、リアルタイムで模擬（シミュレート）する。このFTSシステムを、国際合同授業室のパソコン・ネットワークに移植して、トレーディング・ルームとしている。

両キャンパスのトレーディング・ルームのネットワークを高速デジタル回線で直結し、双方の受講学生は、リアルタイムで取引を行ない、異なる経済市場間の資産運用、裁定取引、為替リスクの管理、ヘッジングなど国際トレーディングを行なう。マーケット・インデックス取引などのケースでは、東京あるいはニューヨーク株式市場から、リアルタイムでデータ伝送を取り入れることも可能である。統合化がすすむ国際的な金融市場を舞台として、投資選択、資産運用などを行なう財務・経営能力を養うことをめざす。国際キャンパス間を空間直結しての新しいグローバル・モデル教室の試みといえる。

4. ネットワーク時代の開かれた知のキャンパスへ向けて

柔軟な学習スケジュール：この修士課程の授業時間帯は、基本的には、午前9時から夜の8時までの間に配置されており、夜間8時以後は、ビジネス・シミュレーションなどのチーム・ディスカッションやプロジェクト活動、演習、研究指導などのためにあけられている。また土曜日は、午前から午後にかけて、授業科目が配置されている。

博士課程の大学院生や、フルタイムの修士課程学生は昼間から授業履修や研究活動に従事できるし、有職者で

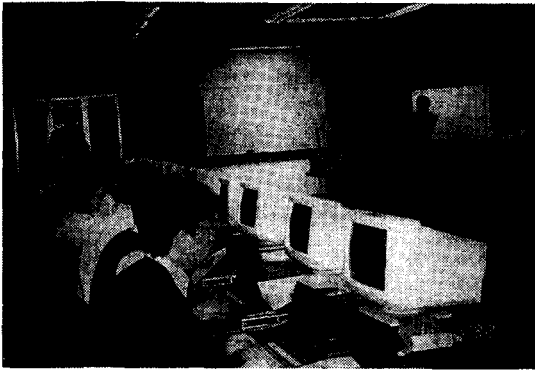


写真 2 ファイナンシャル・トレーディング・システムの光景

も、フレックスタイムを利用して、昼間にキャンパスにやってきて、昼間の授業科目を履修したり、研究指導を受けたり、各人の都合にあわせて、学習、研究のスケジュールを組むことが可能となっている。

コミュニケーション支援環境：さらに、職業人が大学院教育をつづけるにあたり、その時間的、空間的制約を克服するための支援環境として、コンピュータ通信ネットワークの環境整備を進めつつある。研究科内の種々のワークステーション、各種の情報処理ソフトウェアやデータベース用サーバー、パソコン類から構成されるLANを形成している。そして、これを通して、学内外のネットと交信でき、また、カーネギー・メロン大学のコンピュータ・ネットワーク「ANDREW」にもアクセスできるようになっている。この情報インフラの充実により、キャンパスを遠く離れて、たとえば、出張先からでも、また、真夜中や、休日などキャンパスの門が閉まっても、キャンパスの知的資源にアクセスでき、また電子メール、掲示板、電子会議などのかたちで、学生間や教師との対話が可能となっている。筆者自身、自宅の書斎のパソコンから研究科のLANにつながり、そこからカーネギー・メロン大学のアンドリュー・システムの

世界に入れたときの感動は忘れがたい。カーネギー大のキャンパスで、アンドリューのさまざまな情報資源を利用するのと全く変わらない使い方が、現に、自宅からできたのである。新しい時代の新しい可能性を見た気がした。このような環境を知らなかった2、3年前なら、国際キャンパス間での合同マネジメント・ゲームなど、想像することすらできなかった話である。

この開かれたコミュニケーション空間形成の構想は、「社会人大学院のための情報システム」というタイトルのもとに、私学振興財団から、現在2年つづけて、「特色ある教育・研究」としての助成を受けてきた。

この情報システムは、マネジメント・ゲームでのミーティングの連絡や、グループ・ディスカッションなど、正規の授業にも活用されているが、最近では、教師とのアポイントメント、打ち上げ会の連絡、経営問題の相談や、ときには、職場の仕事上の問題の相談まで、あらゆる種類の情報交換の広場となりつつある。

ネットワーク時代の大学院キャンパス：世の中は、まさにネットワークの時代である。自分の生活空間が、職場と家庭だけというのではなく、そこにもうひとつ、新しい次元として、知を磨くための場、いわば、「知の道場」へ通うことを加えたいと望んでいる人は多い。そこは、新しい知識に触れ、学習するだけの場ではない。自分たちと同じように、忙しいなか寸暇をさいて、旺盛なる知識欲をもってやってくる人々、しかも、自分とは別世界の異業種のひとたちとの出会いと交流があり、末長い情報交換と友好のネットが築かれる場でもある。それは、もしかしたら、2年間に吸収した知識にもまして、将来にむけての貴重な知的、また、心の資産となるのかもしれない。

青山学院の国際ビジネス修士課程は、そのようなひとたちが21世紀に向けて創造的な知的活力を養い、育ちゆくための開かれたキャンパスでありたいと念願し、努力している。